

安保・戦争国会粉碎へ！

全学連（斎藤郁真委員長）書記局通信

2015年5月4日
No.290

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

5・1新宿メーデー打ち抜く！

北島邦彦さんのメーデーアピール

シビアな闘いなので、やっぱり選挙が終わったら、どこの党派も大喧嘩するというのはよくあると思うんですよ。だけどそういうことが無い選挙を闘い抜けたって言うのはやはり極めて路線的にうちけたと思います。

だからあるいは票のためにこういうことをすればいいんじゃないかとか、あるいは票のためにこういうことはちょっと伏せといたらいんじゃないかとか、そういうことじゃなくていま我々が労働者・人民に対して、訴え、ともに行動を呼びかけるその内容そのものをストレートに、みんなで打ち出すことができたというところがこの団結っていうポイントだったと思うんですよ。

それから改めて自分が思うんですけれども、その団結の強化って言う点ではやはりもっともっと若い世代を作り出していこうっていうことが一番の団結を強化・拡大していく最大の核心かと思います。今回の選挙戦の中ではその芽がいくつもいくつもできたっていうのを実感をしています。これは非常に大きいことだと思います。

それからもう一つ二つ目には今回の選挙戦で、やはり民営化と外注化には絶対反対なんだと。これが相当、入っていったっていうのがこれもまた大きな事だったと思います。民営化・外注化の闘いはこのかん橋本維新やみんなの党なんかも含め



て、とにかく行革、行革と。民営化でなんでも上手くいくんだというのを世の中を実験場にやってるわけです。その中で国鉄闘争を中心にしながらあくまでも我々は民営化・外注化許せないんだと。その闘いの実証として動労千葉・動労水戸・動労総連合の闘いがあるということ。繰り返し繰り返し訴えてきたんですけども、やっぱりこの選挙戦の過程でいよいよそれがぐわっと一回転したっていう実感持ってます。やっぱりあの民営化の悪って言うことがですよ。極めて大衆的なレベルで認識され始めたし、それを引き出したのは我々の闘いだと、階級的労働運動がひきだしたんだと。国鉄決戦

戦争法案粉碎! 安倍たおせ!

〈6・15国会包囲大闘争〉

6月15日(月) 終日、国会デモや座り込み行動<予定>

〈5/16~18沖縄現地闘争〉

~辺野古新基地建設阻止! 全島ゼネストと連帯しよう!~

5月15日(金) 辺野古現地集会 ※先遣隊のみ参加

16日(土) 国際通りデモ、全国学生集会、「復帰」43年集会

17日(日) 沖縄県民大会(那覇市セルラースタジアム)に合流

18日(月) 沖縄大学で集会



が、それを作り出したんだとそれを自信をもって感じることが出来ます。

今回児童館闘争の中で思ったのは、児童館全廃攻撃をまさにこの民営化・外注化を絶対許さない、非正規労働者を膨大に生み出すような政策は絶対に認めないんだと言うと、広範な若い世代、子どもを持つお母さん達に、児童館っていう子どもを預けるとかこういうようなことじゃなくて、地域の高齢者にも児童館っていうのは大事な場所なんだっていうことがどんどん反応としてかえってきた。やっぱりこの地域の中に、労働者の団結と戦いを軸にした闘いが、高齢者のある地域が全部集まってくることができると思うんですよ。それが本当に闘う拠点になるんだっていうことを自分達自身も実感できたし、それが多くの「そうだね」って「ああいうものなくしちゃいけないよね」っていうことが子ども達の居場所っていうのを超えて、受け止められて返って自分たちの内容にもなっていたのがあるんだろうと思います。

この児童館全廃攻撃との闘いは、改めて民営化・外注化絶対反対の闘いとしてもっともっと研ぎ澄ますことが杉並あるいは全都の全国の自治体労働者を始めとした多くの労働者の励ましになるということを確認をもって、早速もう児童館プロジェクトを地区の中で、29日に最初の会合を選挙終わってよしこうやってこうやろうと議論をしました。

今改めて民営化・外注化との闘いは我々しか言わなかった。我々しかこの民営化・外注化で労働者・人民を獲得することはできないということを改めて労働者のみなさんが先頭に確信する選挙だったという風に思います。

それから三つ目には、選挙は確かに4年に一回とか解散するとあるんですけども、仮に選挙があってそこで闘う議席を取り戻して今回の屈辱をはらそうと言う事じゃありません。たとえば杉並の区役所で働く自治体労働者が、条例改正案とかに対して「こんなものには従えない」と言ってストライキやったら議会の機能は止まるって言うことなんです。つまり議会の中で議員がなんかの法律とか条令をきめてんじゃねえっていうことをこの4年間待たずにはっきりさせるっていうことが、今回の選挙の総括だと思います。

あと民主労総のように、役所の窓口をストライキでしめて、そこで「この政策はおかしいんだ」っていうことを労働者の団結した力で明らかにしていくこと、社会をひっくり返していくんだと、ブチ壊していくんだと。もう労働者がとにかく議場に詰め掛けて、議会場の職員が仕事しない。じゃあどうやったら議事がすすむのかわかりやしないみたいな状況にお



新宿・JR本社に向けてデモ!

いこんで、全部の議員を辞職させるんですよ。もう一回いたたまれなくなって。追い出すんだと。こういうような闘いをやっていくことこそ最も重要なことじゃないかというふうに今改めて思っています。

最後に、動労千葉の国際連帯委員から仲間がドイツ機関士労組のクルト・シュナイダーさんにこの選挙の報告をしてくれました。クルトさんはベルリン鉄道支部っていうドイツの中でも二番目の支部の支部長に当選して勝ったらしいです。組合から追放されるような反主流派でしたが、それが今や支部長です。「2000票っていうのはホントに大事な数だと思います。これは労働者の闘いが一気に広がっていくひとつの細胞みたいなもんだ」ということをメールで返してくれて、やっぱり励まされたし、そういうものとして今回の2000票を捉えなおしたいと思っています。

自分は、東京西部ユニオンの副委員長をしています。この間東京西部ユニオンは、鈴コンをはじめとしてアメリカンアパレルとか、えっ! というような小さな勝利も勝ち取っています。労働組合として胸を張って闘って行きたいと思いますし、この間選挙過程でもたくさんの労働相談をうけているので、どんどん東京西部ユニオンの組合員として獲得していくって言うこともって、議会をひっくり返す労働者の団結の確立にしていきたいと思いますし、そこに多くの児童館で働く労働者の人たちが結集して児童館全廃攻撃など、民営化・外注化の最たるものの攻撃なんか絶対にはねかえす闘いをみなさんと一緒にやって行きたいと思います。ともに頑張りましょう。ありがとうございました。

【当面する行動方針】

●5・10「外登法・入管法と民族差別を撃つ」全国交流集会

5月10日(日) 13時～ 横浜市開港記念会館にて

●「とめよう戦争と改憲、つぶせ裁判員制度」5・19集会

5月19日(火) 18時半～ 東京・弁護士会館2階クレオにて

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判・第10回＝判決

6月29日(月) 11時～ 東京地裁419号法廷にて

※傍聴券配布のため、10時半までに裁判所入口脇に集合してください。

